

## 4. 定点把握対象感染症患者報告状況（月報）

### (1) 過去5年間の報告状況

疾患名	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
性器クラミジア感染症	255	274	260	286	241
性器ヘルペスウイルス感染症	178	177	117	147	152
尖圭コンジローマ	75	65	60	68	54
淋菌感染症	47	55	60	42	30
性感染症報告数 小計	555	571	497	543	477

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	269	209	252	253	254
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	-	-	-	-
薬剤耐性緑膿菌感染症	2	-	1	1	1
薬剤耐性菌感染症報告数 小計	272	209	253	254	255

### (2) 性感染症患者報告状況

性感染症の総報告数は477人であり、前年(543人)から減少した。性別では、男性287人(前年371人)、女性190人(前年172人)であり、男性は減少したが、女性は増加した。

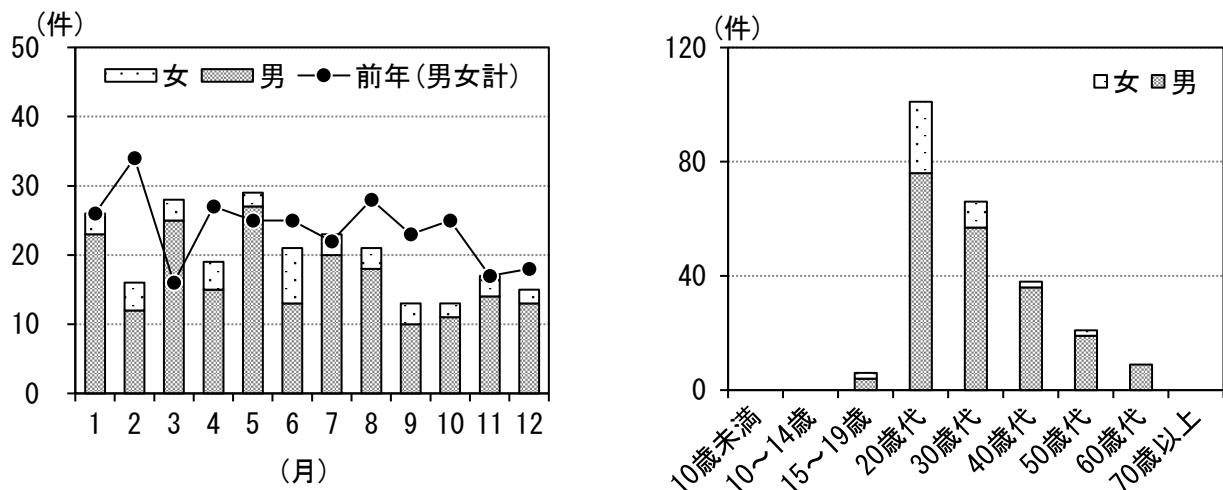
疾患別では、性器クラミジア感染症(50.5%)が約半数を占め、次いで性器ヘルペスウイルス感染症(31.9%)、尖圭コンジローマ(11.3%)、淋菌感染症(6.3%)の順に多かった。

#### ① 性器クラミジア感染症

年間報告数は241人であり、前年(286人)から減少した。男性は201人(前年253人)と減少し、全体の約83%を占めた。一方、女性は40人(前年33人)と増加した。

月別報告数では、男性は5月が最多で27人、9月が最少で10人であった。女性では6月が最多で8人であった。年齢別報告数では、10歳代2.5%、20歳代41.9%、30歳代27.4%、40歳代15.8%、50歳以上12.4%であり、20歳代からの報告が最多であった。

【性器クラミジア感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】



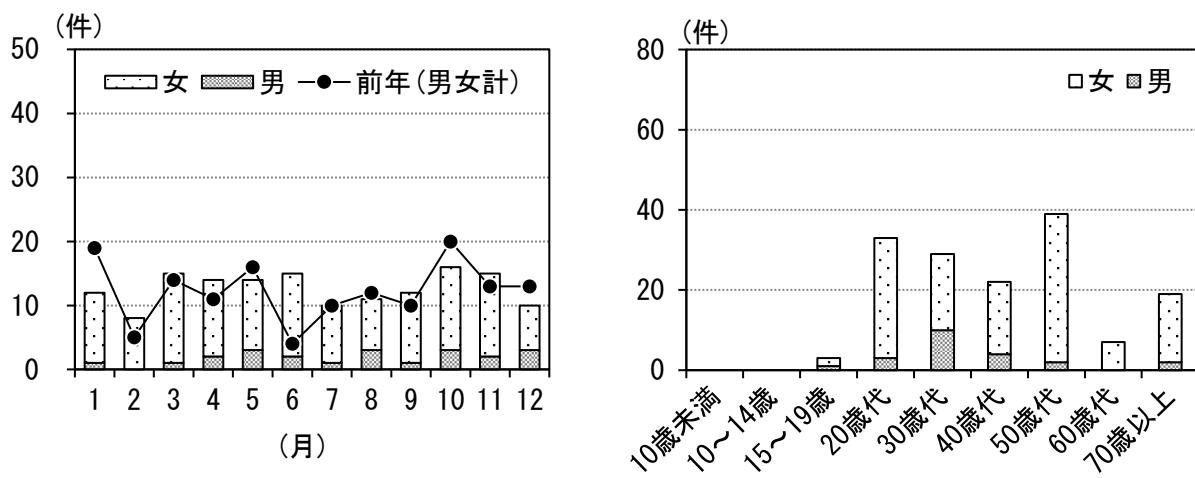
## ② 性器ヘルペスウイルス感染症

年間報告数は152人（前年147人）とわずかに増加した。性別内訳は男性22人（前年19人）、女性130人（前年128人）であった。性感染症全体では男性の報告数が多いが、本疾患は女性が全体の約86%を占めており、他の疾患に比べ女性の割合が高いのが特徴である。

月別報告数では、月ごとの増減はあったものの季節性は認められず、年間を通じて発生した。

年齢別報告数は、10歳代2.0%、20歳代21.7%、30歳代19.1%、40歳代14.5%、50歳代25.7%、60歳代4.6%、70歳以上12.5%であった。20～50歳代が全体の約8割を占め、この層を中心に幅広い年齢層で発生した。

**【性器ヘルペスウイルス感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】**

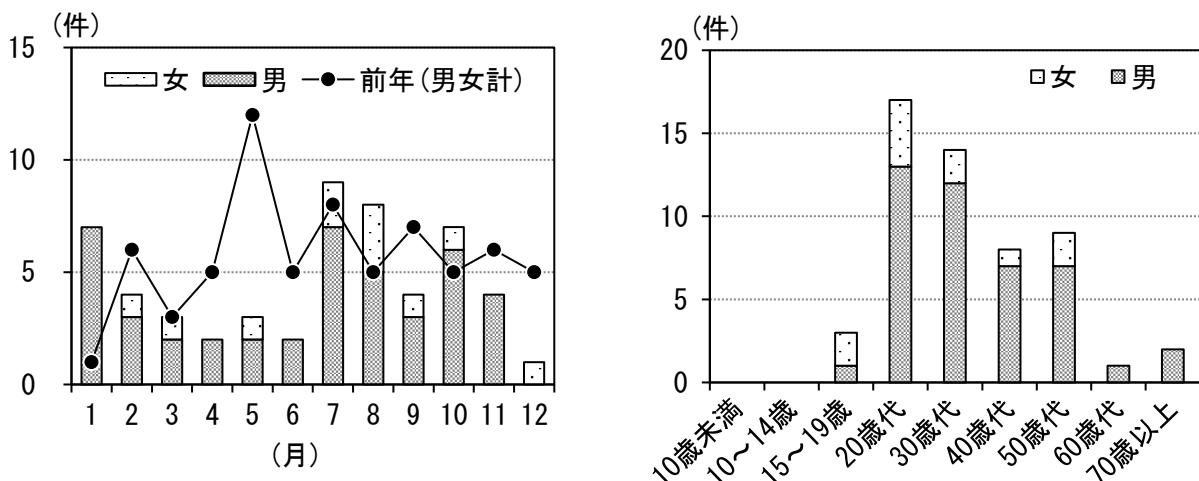


## ③ 尖圭コンジローマ

年間報告数は54人と、前年（68人）から減少した。性別では、男性が43人と前年（61人）から減少し、女性は11人と前年（7人）から増加した。

年齢別報告数では、10歳代5.6%、20歳代31.5%、30歳代25.9%、40歳代14.8%、50歳代16.7%、60歳代1.9%、70歳以上3.7%と、20～50歳代からの報告が多かった。

**【尖圭コンジローマの月別患者報告数と年齢別患者報告数】**

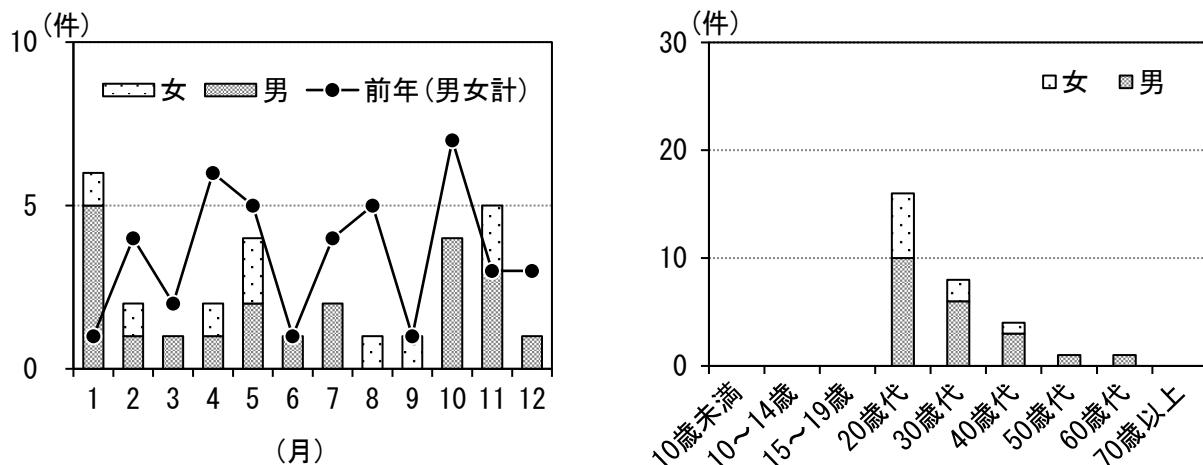


#### ④ 淋菌感染症

年間報告数は30人で、前年（42人）から減少した。性別内訳では、男性21人（前年38人）、女性9人（前年4人）であり、性器クラミジアや尖圭コンジローマと同様に、男性が全体の70%を占めた。

年齢別報告数では、20歳代が53.3%と最も多く、次いで30歳代26.7%、40歳代13.3%、50歳代3.3%、60歳代3.3%の順であった。特に20歳代と30歳代で全体の8割を占めている。

【淋菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】



#### (3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況

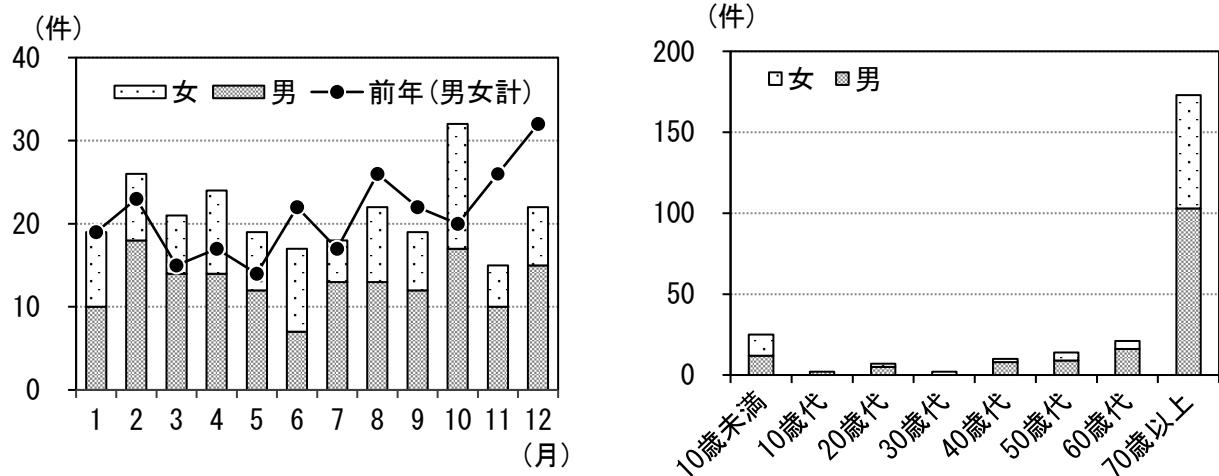
薬剤耐性菌感染症の総報告数は255人で、前年（254人）と同程度であった。疾患別では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が99.6%と大部分を占めた。

##### ① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間報告数は254人で、前年（253人）と同程度であった。性別では、男性155人（前年145人）、女性99人（前年108人）と、男性が多かった。月別では、月による増減はみられたものの明確な季節性は認められず、年間を通じて発生がみられた。

年齢別報告数は、10歳未満9.8%、10歳代0.8%、20歳代2.8%、30歳代0.8%、40歳代3.9%、50歳代5.5%、60歳代8.3%、70歳以上68.1%であり、70歳以上が全体の約7割を占め最多であった。

【メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】



② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

前年に引き続き、本年も報告はなかった。なお、過去5年間の報告数は0～3人で推移している。

③ 菌剤耐性緑膿菌感染症

年間報告数は1人（前年1人）であった。報告された1人は、70歳以上であった。なお、過去5年間の報告数は0～3人で推移している。